

ティカル保存事業

ティカル国立公園内には建造物の修復作業に取り組んでいる作業員が12人程いる。グアテマラ人考古学者が率いる作業員たちの指名は、同公園内北アクロポリスの建造物の保存及び修復である。石灰岩の建造物の表面部は雨、日光や風の影響を受け、劣化している。

修復作業のリーダーによると、北アクロポリスはティカル公園内の建造物で最も劣化が激しい建造物であるが、本プロジェクトを通じた修復作業によって、状況の改善が期待されている。国立サン・カルロス大学で考古学を学び、現場で修復技術を取得した同リーダーは、「修復作業で重要なことは、建造物から歴史的価値を取り払わないことである。」と述べる。

本プロジェクトの中心人物である金沢大学の中村教授は、日本のユネスコ信託基金によって実現するプロジェクトの一つは、スキャンニングによる北アクロポリスの高解像度3Dモデル化であり、右により実際に見ることの出来る建造物の下に埋もれているであろう何百もの建造物の状態を知ることが出来ると述べた。本プロジェクトには、日本のユネスコ信託基金30万ドルが用いられる。

日本政府は、修復作業の他にペテン県観光地域の住民向けの研修も行う。富安 JICA グアテマラ事務所長は、地域住民及び指導者が経済活動や保護活動への取り組みへの支援を目的とした研修を行うと述べた。また、同所長は、JICA による5百万ドルに上る支援により2012年にティカル文化遺産保存研究センターが開設したことも併せて紹介した。